令和元年度　二学期始業式 式辞

今年の夏も、厳しい暑さの日が続きました。今はひと段落していますが、まだまだ続くことも予想されます。運動会を控え、体調管理には十分気を付けて下さい。

　さて、そのような暑い中でも、北信越大会、全国大会での挑戦と活躍、また、新チームとなっての部活動、全日本吹奏楽コンクール、大徳中学校との交流、サイエンスチャレンジや加賀地区意見発表大会、親子奉仕作業、そして生徒会役員が参加した能美市議会の体験等、皆さんの頑張り励む姿や躍動する姿が見られ、大きく報じられ充実した夏休みでした。

この中で、先生の心に残ったこと、二つを紹介します。

一つは、大徳中学校との交流です。　全校で歌った「アリラン」は大変喜ばれていました。学校紹介では本校の国際交流部員も頑張っていましたが、大徳中学校の生徒の英語力には大変に驚きました。ホームステイをはじめ、様々な体験を通しての交流が行われたわけですが、先生が感動した場面が二つあります。それは、一日目の対面式と最終日、小松空港での送別式の場面です。

対面式では、初めて会う生徒同士も、まるで以前から知った友達のように、お互い会えたことに、心からの喜びに満ちあふれていました。とても素敵な場面でした。

最終日の送別式では、互いに別れを惜しむ姿と同時に、次にまた会おうと心から望む、希望の約束にあふれていました。

相手を理解し尊重することで、心通じ合う姿、国際交流を通してその意義を確認した瞬間でした。

二つ目は全国大会での活躍です。

飛び込み、女子ハンドボール部の選手は、全国を相手にしたこのような大会においても、堂々と勝負にのぞんでいました。

ここでは、女子ハンドボール部について、お話しします。

強く印象に残ったこと、それは、準優勝までの五試合を通して、チームとして成長する姿があったことです。全国の激戦を勝ち抜いてきたチームにはそう簡単には勝たせてもらえません。今回も一点差のゲームが二試合ありました。

それを乗り越えてきた勝因は、あきらめない力、ピンチをチームでカバーしチャンスに変える力等、総合力としてのチームの力です。

大会後、市長へ表敬訪問に行きました。その中で、「一二年生の力があって、準優勝できた」と報告する三年生の姿に、また、一二年生の報告にうなずきながら聞く三年生の姿にも、チームとして、また、一人ひとりの成長を感じました。

水泳競技も含め、普段生活を共にする友達が成し遂げたことは、ここに集まる生徒の皆さんは勿論のこと、先生方や地域の方々、能美市民の皆さんに、元気と勇気を与えるものです。

あきらめないこと、そして互いに協力し補いあうこと、それが、道を拓くことを、女子ハンドボール部の活躍から学び、皆さんと確認したいと思います。

二学期は、体育祭や文化祭、合唱コンクールと言った行事を通し、学校全体が大きく成長することが期待される学期です。勿論、学習面でも充実期を迎えるべき学期です。

皆さんには、先に紹介したお話の意図を受け止めてもらい、校訓「和して学ばん」「汗して生きん」「創造の力みがかん」をそれぞれに実践し成長する姿を、二学期のゴールとして、大いに期待したいと思います。

以上、二学期始業式辞とします。